

議員定数削減の再考に関する陳情

(議会運営委員会付託)

受理番号 第 138 号

受理年月日 令和4年12月16日

付託年月日 令和5年 2月21日

陳情者
.

陳情原文 陳情に議員定数削減の方針を示すよう迫るものがありますが、定数の削減を現時点で思いとどまっていたいただきたく、ここ2年ほどの近隣自治体への転出超過を鑑みても、現時点での拙速な定数削減を行うことに疑義を示したく陳情いたします。

議会で「仮定の話」は考えずにできることではないことゆえ、経験豊かな議員、区職員と区民が共に協力しつつ行うことが望ましいと考えます。

議員の定数を人口比から見てもより少なくすることは、それだけ住民の意思が行政に反映されなくなるわけですが、地方議会の二元代表制のもとでは、議会の基本的役割と機能を維持する必要があり、そのためには、議員の数は一定程度確保されていなければなりません。議員定数の削減は、この議会制民主主義の重要な役割を弱め、区民と行政をつなぐパイプを細くすることになります。

例えば、本区と人口・面積がほぼ等しい足立区で考えると、人口69万人で議員定数が45人なので、議員一人当たりの人口が15,333人となりますが、議員定数を40人としたら17,250人に一人となります。増加する約2,000人分の意見をどう受け取り、集めるのでしょうか。

また、足立区議会の過去の年度において、区政課題をどう捌いたかを確認してから、次の行動を決めてもよいと思うのですが、いかがでしょうか。

本区は2021年1月1日から2022年1月1日での人口動態統計における人口減少ワースト10の中の6位であり、「江戸川区の社会動態については、転入者数、転出者数とも増加傾向にあるが、その差が近年減少している。すなわち社会増の傾向は続いているものの、社会増は縮減の傾向にある。」とあるが、均衡する年度以降に起きる課題を豊かな経験を持ち、見通しがきく議員各位で仔細に調査と議論をし、政策に反映させたほうが全体の利益に適うと考えるためです。今より少ない人数とすることできめが粗くなることと、コスト削減を図ることでの区民が得る利益について、区民の声を聞いて行政に反映される姿勢と組み合わせこそ最大化が図れるものであり、定数削減への誘導の前に議論をしていただきたい。報酬も、23区で一番高額である745万円を支出するならば、それに足るだけの議論の質と量を確保するという方法もあると考えます。

最後に、足立区も江戸川区もおそらくは、区議会議員がコミュニティソーシャルワーカーの役目も重めに受けている自治体なのではないのかと思われます。国会議

(裏面に続く)

員の「一票の格差」は言われても自治体の議会での「一票の格差」は誰も言わないこともあわせ、ここに示します。

つきましては、貴議会において、議員定数削減の再考について議論をするよう、下記のとおり陳情いたします。

記

定数削減は他区との比較および、地方自治法第91条の件から照らし、現時点において適切な振る舞いかどうか議論をしていただきたい。